平成２８年度　たまねぎ特別栽培防除体系（北もみじ2000）

JAふらの・玉ねぎ部会

項目	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 1	7月 2	7月 3	7月 4	8月 1	8月 2	8月 3	8月 4	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中
作況平年値			5/6						7/3	7/9			7/28		8/19			9/9						
生育期節 農作業			移植期						球肥大始	球肥大期		倒伏期			枯葉期			収穫期						
白斑葉枯病								○	○	●	●	●	●	○										
小菌核病								○	●	●	●	○												
軟腐病								○	●	●	●	○												
リン片腐敗病										○	●	●	●	●	●	○								
灰色腐敗病													○	●	●	●	●							
タマネギバエ等			○	○	○																			
ネギアザミウマ								●	●	○	●	○	●	●										
●は基幹防除 ○は臨機防除 殺菌・殺虫薬剤の使用例		ダイアジノン粒剤（３～６ｋｇ） または ダイアジノン乳剤 700倍 どちらか１回					アグレプト 1,000	ポリオキシンAL 500 アグレプト 1,000	Gベンコゼブ またはGダイセンM 400 アグレプト 1,000 シポンリAオL キ 500	アフェット 2,000 スターナ 1,000 ナデSィCア 2,500	ポリオキシンAL 500 フジドーL 500 トクチオン 1,000	アフェット 2,000 フジドーL 500 バフロクー 1,000	ポリオキシンAL 500 フジドーL 500 ナデSィCア 2,500	フロンサイドSC 1,000 フジドーL 500 ガリードフ 1,500	セイビアー 1,000 フジドーL 500 バフロクー 1,000	シルバキュア 2,000 フジドーL 500 シポンリAオL キ 500	トップジンM 1,000							
除草剤散布																								
●は基幹防除 薬剤の使用例			（土壌処理） ゴーゴーサン乳剤 （300～500ml） または　細粒剤F （5～6kg）				（茎葉処理） アクチノール乳剤																	

各薬剤が使用できる回数

	成分P	回数	カウント
ポリオキシンAL（ポリオキシン複合体）	0P	5回	0P
GベンコゼブまたはGダイセンM（マンゼブ）	1P	1回	1P
アフェット（ベンチオピラド）	1P	2回	2P
セイビアー（フルジオキソニル）	1P	1回	1P
フロンサイド（フルアナジム）	1P	1回	1P
シルバキュア（デブコナゾール）	1P	1回	1P
トップジンM（チオファネートメチル）	1P	1回	1P
アグレプト（ストレプトマイシン）	0P	3回	0P
スターナ（オキソリニック酸）	1P	1回	1P
フジドーL（塩基性硫酸銅）	0P	6回	0P
ダイアジノン（ダイアジノン）	1P	1回	1P
トクチオン（プロチオホス）	1P	1回	1P
リーフガード（チオシクラム）	1P	1回	1P
ディアナSC（スピネトラム）	1P	2回	2P
フローバックDF（BT）	0P	2回	0P
ゴーゴーサン（ペンディメタリン）	1P	1回	1P
アクチノール（アイオキシニル）	1P	1回	1P
		合計P	15P

備考（耕種的防除）（注意事項）

ネギアザミウマの予察に基づく効率化防除方法
　１回目防除：成虫寄生株率10%以上で10日以内防除開始（寄生株率50%以上では直ちに防除）
　２回目防除：１回目防除の５～10日後に連続防除
　追加防除：寄生株率50%以上で直ちに防除

※　使用基準(使用時期)を遵守し、体系の範囲内での栽培とする。(不要な場合は薬剤を削除して可)

※　使用順の入替えは可とするが、防除効果より体系化または混用の可否もあり、できる限り体系通りの使用が望ましい。

※　混用に不適なものもあるため注意が必要。（トップジン＋フジドーLなど。）

※　ネギハモグリバエの発生が予想されるほ場、または前年被害のあったほ場では特別栽培を極力避ける。

※　病害虫多発時はアリンサンデス2号　500倍を加用する。（但し、Gベンコゼブ、Gダイセン M、フジドーLとの混用は不可。アリンサンデス2号にはN=4%含まれており、500倍200ℓ/10a散布で1回当り化成N=0.016kg/10aの施用量となります(基肥化成N量に注意が必要です)。

*ネギハモグリバエの被害が依然継続しており、ネギハモグリ対策の殺虫剤を中心に変更。さらに、殺虫登録を取得したポリオキシンALの使用回数を増加

参考資料